

令和5年2月14日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）幼保小連携及び接続の推進について

第2期「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プランにおける取組において、幼児教育と小学校教育の円滑な連携及び接続に、どのような狙いを持って取り組み、どのような成果が上がっているのか伺う。

さらには、今後、どのように取り組んでいこうとされているのか、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

幼児教育におきましては、一人一人の子供が興味・関心に基づいて、やりたいことを自由に選択できる環境の中で、安心して主体性を発揮しながら「遊び」を展開していくものであるのに対し、小学校教育においては、時間割に基づく集団指導が原則であるなど、両者には大きな隔たりがございます。

このため、第1期プランにおきましては、5歳児から小学校1年生の2年間、いわゆる「架け橋期」における幼児教育と小学校教育の隔たりを埋め、なだらかにつないでいくことをねらいとして、円滑に接続するカリキュラムの作成支援に取り組んでまいりました。

これにより、架け橋期のカリキュラムが全ての市町で作成・実施され、さらに園所と小学校が連携し、よりよいものに改善している市町は、今年度、21市町まで増加したところでございます。

こうした成果を踏まえ、さらに第2期プランにおいては、「遊びは学び」という幼児教育の基本的な考え方を小学校側に授業に生かしていく取組の強化を目指して、小学校の全ての初任者が、園所で保育に参加する研修を今年度から開始したところでございます。

研修後に実施したアンケートによりますと、参加した初任者の多くから、

- ・ 自らの授業を見直し、子供のつぶやきや自由な発想を大切にした授業を行うようになった、
- ・ 授業中、ヒントを出しすぎず、子供が考える場面を増やした

などの回答を得ており、幼児教育の良さを生かした授業改善が進んでいるものと考えております。

この研修をはじめとする本県の取組は、架け橋期の教育の充実に関して、現在、議論が行われている国の審議会においても、先進的な取組として注目

を集めており、その成果を全国にも発信してまいりたいと考えております。

　　今後は、幼児教育で遊びを通して育まれてきた資質・能力が、小学校以降においても発揮されることを目指し、幼保小連携・接続をしっかりと進めてまいります。